

2018年5月24日

報道関係各位

小田急電鉄株式会社
 神奈川中央交通株式会社
 SBドライブ株式会社

小田急電鉄・神奈川中央交通とSBドライブが協業に関する協定を締結

小田急電鉄株式会社（本社：東京都新宿区 社長：星野 晃司、以下「小田急電鉄」）、神奈川中央交通株式会社（本社：神奈川県平塚市 社長：堀 康紀、以下「神奈川中央交通」）と、ソフトバンクグループのSBドライブ株式会社（本社：東京都港区 社長：佐治 友基、以下「SBドライブ」）は、自動運転技術を活用した実証実験の実施および自動運転に必要なシステムの開発、次世代スマートモビリティのサービス構築に向けて協業するために、2018年5月24日（木）に協定を締結しました。

小田急電鉄は、自動運転技術をはじめとする次世代のテクノロジーを生かした新しいモビリティサービスを実現し、小田急沿線における先進的なまちづくりの推進を目指します。神奈川中央交通は、きめ細やかな生活交通路線の維持・確保、人為的ミスによる交通事故の防止、さらには就労人口の減少に伴うバス運転士などの労働力不足が課題となっており、これらの課題解決のため、自動運転バスの導入に取り組んでいく必要があると考えています。SBドライブは、自動運転技術を活用したスマートモビリティサービスの事業化を目指しており、自動運転バスの実用化による公共交通の維持・改善につなげていきたいと考えています。

3者は今回締結した協定に基づき、小田急グループのバス事業に関するノウハウおよび実証実験のフィールドと、SBドライブが開発している遠隔運行管理システムなどの自動運転に必要なシステムを活用して、自動運転バスの実用化に向けた取り組みを推進するとともに、将来のビジネスモデルや次世代スマートモビリティのサービス構築について連携していきます。



神奈川中央交通が運行する「ツインライナー」



SBドライブが所有する自動運転シャトルバス「NAVYA ARMA（ナビヤ アルマ）」

■2018 年度の実証実験について

今回の協定に基づき、下記の実証実験において SB ドライブの自動運転関連技術を活用します。

① 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（神奈川県藤沢市）

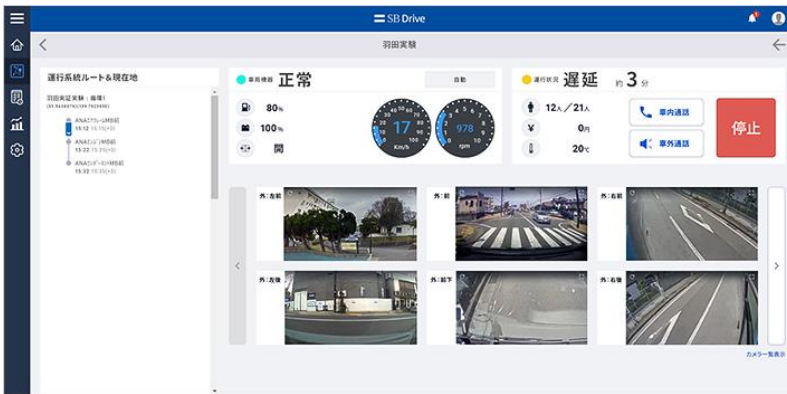
小田急電鉄および神奈川中央交通は 2017 年 12 月に学校法人慶應義塾と連携協力協定を締結しており、2018 年度に湘南藤沢キャンパス内で自動運転バスの実証実験を実施します。

② 江の島（神奈川県藤沢市）

小田急電鉄は神奈川県ロボット共生社会推進事業の一環で、2018 年 9 月に開催されるセーリング・ワールドカップシリーズに合わせて、神奈川県、江ノ島電鉄株式会社と連携して自動運転バスの実証実験を実施します。

■遠隔運行管理システム「Dispatcher（ディスパッチャー）」について

SB ドライブが開発を進めている、遠隔地から複数台の車両ごとの運行管理が可能なシステムで、車内外の映像のモニタリングや車両の遠隔操作、緊急通話などの機能を備えています。



「Dispatcher」管理画面（イメージ）

■参考

【小田急グループについて】

小田急電鉄株式会社や神奈川中央交通株式会社などからなる小田急グループは、東京・神奈川を主な事業エリアとして、鉄道やバスなどの運輸業のほか、不動産業、流通業などさまざまな事業を展開し、現在 99 社（※）のグループ会社で構成されています。※2018 年 4 月末時点

【SB ドライブについて】

自動運転技術を活用したスマートモビリティサービスの事業化を目指し、ソフトバンク株式会社と、自動運転技術を研究・開発する先進モビリティ株式会社の合弁会社として 2016 年 4 月に設立され、2017 年 3 月からはヤフー株式会社が資本参加しています。現在、北九州市や浜松市など、4 市町村と連携協定を締結しており、2017 年には内閣府が推進する戦略的イノベーション創造プログラム「自動走行システム」の沖縄における自動運転バスの実証実験を受託し、沖縄本島などで実施しました。

以上